

取扱説明書

お客様へ

- 設置は必ず専門業者へ依頼してください。
- 本取扱説明書は、大切に保管しておいてください。
- ご不明な点は、巻末に記載されている営業窓口へお問合せください。

施工工事業者様へ

- 施工前に本取扱説明書をよくお読みのうえ、正しく施工してください。
- 本取扱説明書は必ずお客様にお渡しください。
- 漏水検知シートは、ドレンホースの通水試験用の簡易検査キットです。試験時および試験後に発生する水漏れ事故などによるいかなる損害に対しても、弊社は一切の責任を負いかねますので、あらかじめご了承ください。

1 はじめにお読みください（正しく安全に使用いただくために）

**本製品はパッケージエアコンのドレンアップ配管専用のホースです。
その他の配管には使用しないでください。**

■表示内容が無視して誤った使い方をした場合に生じる危害や損害の程度を、次の表示で区分しています。

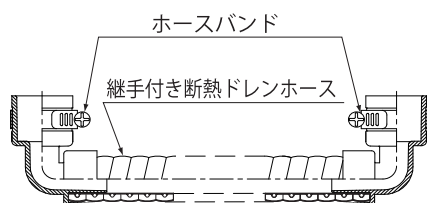
⚠ 注意	取扱いを誤った場合、使用者が傷害を負う可能性があります。
通 告	取扱いを誤った場合、物的損害を負う可能性があります。

■お使いになる人や他の人へ危害、財産への損害を未然に防ぐため、必ずお守りいただくことを次のように説明しています。

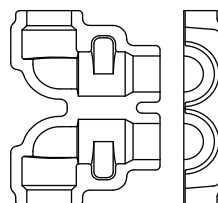
⚠ 注意	●作業時は必ず作業用手袋・ヘルメットなどを着用してください。
通 告	●ホースバンドは必ず付属品を使用してください。付属品以外を使用すると漏水のおそれがあります。 ●継手は付属の保温カバーを用いて、施工手順に従い保温施工をおこなってください。 使用環境によっては結露が発生するおそれがあります。 ●ホースの支持部は、同梱の断熱粘着テープを巻き付けてください。 ホースの自重で断熱層がつぶれて結露が発生するおそれがあります。

- お願い ※下記が守られなかった場合、製品の想定する機能・性能が発揮されない可能性があります。**
- ホースの立ち上げ高さは、空調機メーカー指定の最大立ち上げ高さ以下にしてください。
 - 屋内専用配管です。屋外では使用しないでください。

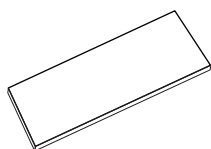
2 セット明細（各部名称）



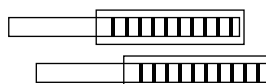
継手付き断熱ドレンホース…1本
(ホースバンド…2個付き)



エルボ保温カバー…2個



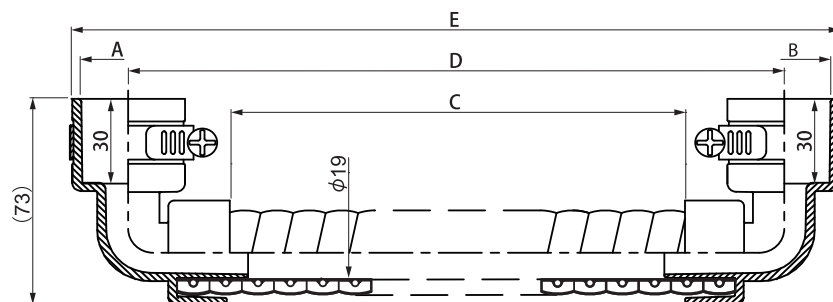
断熱粘着テープ…1枚
(幅 50mm×高さ 150mm×厚さ 3mm)



漏水検知シート…2枚

3 製品仕様

■ 寸法



単位：mm
() 内は参考寸法

型番	適合配管	A	B	C	D	E
DSH-UP20E20R -07	A寸法側：VP-20A	φ26	φ26	700	(768)	(800)
DSH-UP20E20R -10	B寸法側：VP-20A			1000	(1068)	(1100)
DSH-UP20E25R -07	A寸法側：VP-20A	φ26	φ32	700	(768)	(803)
DSH-UP20E25R -10	B寸法側：VP-25A			1000	(1068)	(1103)
DSH-UP25E25R -07	A寸法側：VP-25A	φ32	φ32	700	(768)	(806)
DSH-UP25E25R -10	B寸法側：VP-25A			1000	(1068)	(1106)

■ 材質・色調

名 称	材 質	色 調
継手付き断熱 ドレンホース	ホース内層・外層 フィルム	アイボリー
	ホース断熱材	白
	エルボ継手	透明
ホースバンド	SUS	—
エルボ保温カバー	30倍発泡ポリエチレン	白
断熱粘着テープ	30倍発泡ポリエチレン 片面粘着加工・離型紙付き	白
漏水検知シート	シート部：紙 検査用袋：PE	シート部：白（検知線：青） 検査用袋：透明

4 施工手順

1. 配管経路の確認

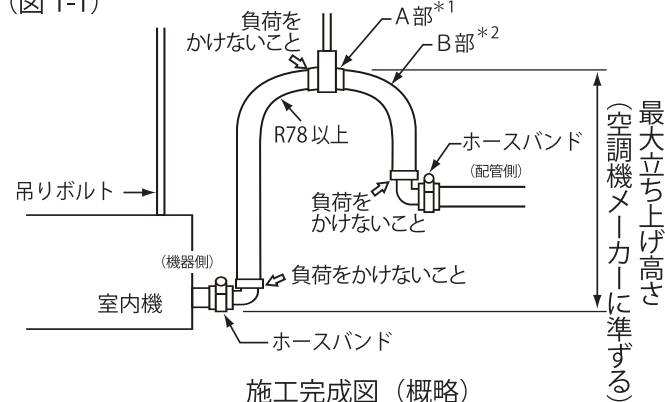
- (1) ホース、継手に荷重がかからないように、ホースの曲げ半径は R78（曲げ内側）以上となるように配管経路を確認してください。（図 1-1）

通告 正しい配管経路で施工を行わないと、ホースの破損、継手の変形による漏水のおそれがあります。

- (2) 最大立ち上げ部以降では、逆勾配が発生しないように配管経路を確認してください。（図 1-1）

通告 正しい配管経路で施工を行わないと、ドレン水が逆流し漏水のおそれがあります。

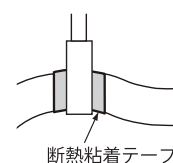
(図 1-1)



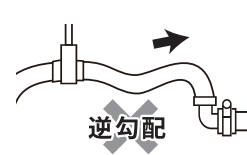
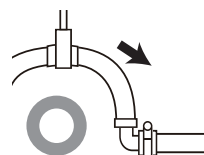
*1 配管支持部 (A 部)

支持部には、同梱の断熱粘着テープを巻き付けてください。

通告 ホースの自重で断熱層がつぶれて、結露が発生するおそれがあります。



*2 配管勾配 (B 部)



2. 継手の接続

【ホースバンド接続】または【接着接続】のどちらかの方法で、機器側、配管側の両方を継手と接続してください。

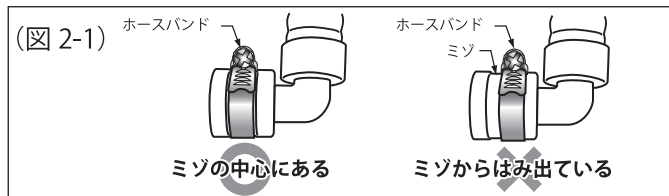
通告 接着接続の場合

接着材を塗布した塩ビ管に応力が加わることで、塩ビ管がソルベントクラックを起こす可能性があるため、接着箇所にはホースバンドを使用しないでください。

【ホースバンド接続の場合】

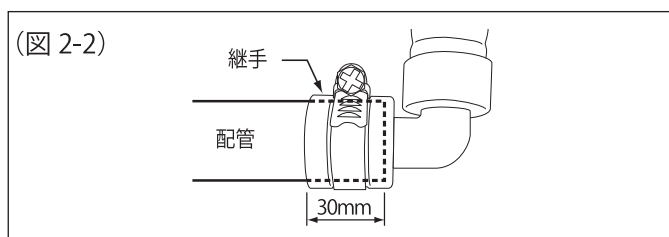
- (1) 継手のミゾ中心にホースバンドが取り付けられていることを確認します。(図 2-1)

通告 正しい位置でホースバンドを施工しないと漏水のおそれがあります。



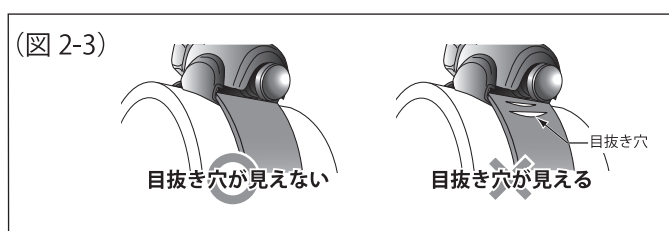
- (2) 接続する配管を継手奥まで (30mm) 差し込みます。(図 2-2)

通告 管が奥まで差し込まれずにホースバンドを締め込むと漏水のおそれがあります。



- (3) 管の差し込みが完了したら、ホースバンドを締め込みます。スパナなどで目抜き穴が完全に見えなくなるまでしっかりと締め付けてください。(目安トルク 400N・cm) (図 2-3)

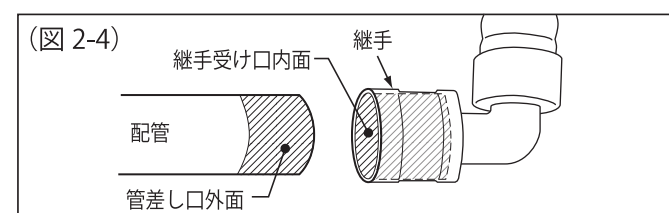
通告 ホースバンドの締め込みがゆるいと漏水のおそれがあります。



【接着接続の場合】

- (1) 接着する硬質塩ビ管は、面取りを行い、継手受け口内面と管外面を乾いたウエスなどできれいに清掃してください。
- (2) 接着剤は、継手受け口内面、管差し口外面の両面に塗リムラや塗リモレがないよう円周方向に均一に塗布してください。(図 2-4)

通告 接着接続される場合、低粘度の塩ビ管接着剤は乾燥が早いので、塗布後は素早く接合してください。接着剤が乾燥すると接着不良により漏水のおそれがあります。



- (3) 塗布後、ただちに管を継手にひねらず真っ直ぐに一気に差し込み、管が抜け出てこないように管と継手を 30 秒以上保持してください。
- (4) 接合後、はみ出した接着剤は直ちに拭き取り、接合部に無理な力を加えないようにしてください。

通告 接着箇所にはホースバンドを使用しないでください。

接着剤を塗布した塩ビ管に応力が加わることで、塩ビ管がソルベントクラックにより継手が割れ、漏水のおそれがあります。

- (5) 配管接合後、内面接着剤の溶剤蒸気除去のため必ず通風を行ってください。

通告 通水試験は、接着後 24 時間経過してから行ってください。

接着剤が性能を発揮する前に通水試験を行うと漏水のおそれがあります。

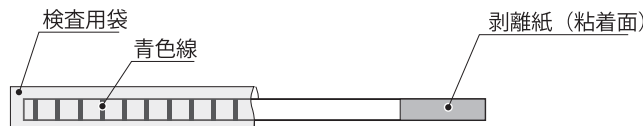
推奨接着剤 ・ 積水化学工業 (株) : エスロン No.73S、エスロン No.73S ブルー
・ (株) クボタケミックス : カラータフダインプール

⑩ 低粘度の接着剤は乾燥が早いので、塗布後は素早く接合してください。

3. 漏水検知シートの取付け、および断熱施工

お願い 漏水検知シートを取付ける前に

- 同梱しているドレンホースの通水試験用にのみ使用してください。
- 検査用袋は取り外さないでください。必ず、袋を付けた状態で施工してください。
- 漏水検知シートに水滴、汗などが付着すると、青色線が消色するおそれがあります。施工の際は取扱いにご注意ください。
- 漏水検知シートは、長時間多湿状態で放置すると青色線が消色する可能性があります。このため、開封後はすみやかに施工および通水試験を行ってください。



注 通水試験時に継手部で漏水があると青色線が消えます。

【室内機配管もしくは横引き配管に取付ける場合】

(1) 漏水検知シートを保温カバーに取付けます。

<エルボ保温カバーへの取付け>

青色線を下にして漏水検知シートの検査用袋が保温カバー端部から0~20mm 入ることを確認してください。(図 3-1)
漏水検知シートの剥離紙をはがし、保温カバーに貼り付けます。

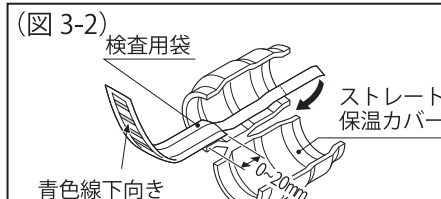
注 検査用袋を保温カバーに入れすぎる(20mm 以上) と、検知できないおそれがあります。



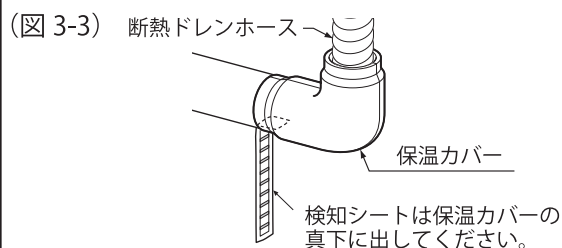
<ストレート保温カバーへの取付け>

青色線を下にして漏水検知シートの検査用袋が保温カバー端部から0~20mm 入ることを確認してください。漏水検知シートの剥離紙をはがし、保温カバーの外側に折り曲げて貼り付けます。(図 3-2)

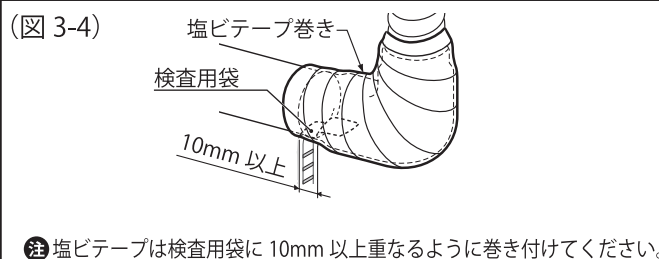
注 検査用袋を保温カバーに入れすぎる(20mm 以上) と、検知できないおそれがあります。



(2) 継手に保温カバーを取付けます。(図 3-3)



(3) 接続配管と保温カバーとの間にすき間が生じないように塩ビテープを巻き付けてください。(図 3-4)



(4) 施工後の確認

通水開始後、2 時間以上経過してからシートの青色線が消えていないか確認してください。
確認後、断熱処理部を傷つけないようにシートの根元部をハサミなどで切断してください。

